

学校法人東放学園
東放学園音響専門学校 殿

東放学園音響専門学校
学校関係者評価委員会

2023(令和 5)年度 学校関係者評価報告書

1. 学校関係者評価委員

〔学校運営に関する有識者〕(委員長)

佐久間 義彦	学校法人東放学園 元理事 東放学園専門学校、東放学園音響専門学校、元校長 一般社団法人 日本ポストプロダクション協会 顧問 一般社団法人 全国放送派遣協会 顧問 前専務理事
--------	---

〔就職先の企業および業界関係者〕

今泉 裕人	一般社団法人コンサートプロモーターズ協会 事務局
-------	--------------------------

〔高校の教員〕

片桐 慶久	東京都立向丘高等学校 主幹教諭
-------	-----------------

〔卒業生〕

高橋 堅太	Be-U 株式会社 代表取締役 CEO 〈音響技術科 卒業〉
-------	-----------------------------------

2. 事務局

〔学校教職員〕

酒井 努	東放学園音響専門学校 校長
和田 一夫	同 教務教育部 部長
阿部 純也	同 学務管理部 部長(事務局)
小山内 宙	同 音響技術科 学科主任
佐野 僚	同 音響芸術科 学科主任
勅使川原 美鈴	同 学務管理部(事務局補佐)

3. 学校関係者評価委員会の開催状況

- ①2023 年 7 月 21 日(金)18:00～19:30 東放学園音響専門学校 渋谷校舎 2 階 2A5 教室
②2023 年 11 月 24 日(金)18:00～19:30 東放学園音響専門学校 清水橋校舎 2 階 2S1 教室

4. 学校関係者評価結果

評価基準

4	適切に対応している。課題の発見に積極的で今後さらに向上させるための意欲がある。
3	ほぼ適切に対応しているが課題があり、改善方策への一層の取組みが期待される。
2	対応が十分でなく、やや不適切で課題が多い。課題の抽出と改善方策へ取組む必要がある。
1	全く対応をしておらず不適切。学校の方針から見直す必要がある。

「2022 年度 東放学園音響専門学校 自己評価報告書」に基づき審議、検討し、以下の通り報告する。

I. 重点目標について

【専門分野と周辺職種の教職員スキルアップ】	
コメント	評価
・アフターコロナで新技術が芽を出しつつある業界の動向を更に目配りして欲しい。教職員のスキルアップは理論、知識だけでなく積極的に業界の研修を実施してほしい。 (かつて東放学園は1～2年の出向研修をさせていた) ・コロナ禍を経て、ライブ・エンタテインメント産業で起きた変化や生じた課題へ即応されていることが見て取れる。最新技術の理解やサービスの体験を通して、産業としての流れを把握される取組を、日々多忙な中でも実施されていることも重要である。一方で、今後のライブ・エンタテインメント産業において、オンライン配信がどの程度活用されるかは不透明な部分があるように思われる。 ・「新たな形」に対する研修はとても大切だと思う。日々新しくなる状況に対して、指導者レベルで対応するのは大変なことだが、それが求められている時代である。 ・コロナ禍でエンタメ業界の在り方や、そこへ向かう学生の目標設定の定め方も大きく変わっていくなかで、広く変革しなければいけない状況にあったと思う。 エンタテインメント業界を目指す人の働き方の意識が変わってきており、以前は一つの技術のみを重視していたが、最近では広い視野で仕事を考える人が増えてきている。 目標や取り組み案が細分化されたうえで、学校は対応できていると思う。	4

【就職決定率の回復、向上】	
コメント	評価
・業界の特別講座、講師を多用してゼミ化するなど常に業界との連携を。 ・就職率がコロナ禍前より向上したことは大変喜ばしく、学生との面談の機会を増やし、ひとりひとりへの関与を深める方針が奏功したと思われる。今後ライブ・エンタテインメント産業では人手不足の深刻化が見込まれるので、一例として、コロナ禍で業界の求人が激減した時期に、やむなく他業界へ就職したOBの方々へ、ライブ・エンタテインメント産業への転職を促すような取組も検討してもらいたい。 ・単なる「向上」ではなく、「回復・向上」と記載されているところに苦労が伺える。前回の会で、本当に様々な職に就いていく、ということを知り、あらためて学生一人ひとりを就職させていく指導の重要さと、今までの就職指導のご苦労を感じ取ることができた。 ・考えられるできることを、実施している内容である。 このテーマに関しては、今後もその時々状況変化に合わせて時間の使い方は考えていくと思うので常に改善意識の共有が必要である。学生の進む業界でのリアルな状況共有などは企業との連携を強くし、いい面だけでなくリアルな問題なども随時見ることのできる環境があると職業選択の材料になると思う。	4

【業務成果の可視化】	
コメント	評価
・業務成果の可視化の一つの方法は「研究紀要」(学内紀要)の学生への開示である。 「研究紀要」の先にあるのは、「論文」であり、本来であれば日本音響学会などに提出すべきものである。しかし、予算等の問題でそこまでの取り組みが厳しかったのも事実であるが、研究紀要も抜き刷りし簡略したものを学生へ開示することは絶対に必要である。今はネットなど情報を開示する方法はいくらでもある。研究成果を学生へ示すことが教師の原点ではないだろうか。 ・業務成果の可視化については、定量化しづらい面もあるように思うが、教職員の方々を対象としたチェックシートによる現状把握と課題の洗い出し、評価基準の明確化は有用な取組と思われる。 ・「表彰制度」は良い取り組みだと思う。	4

II. 評価項目別取組状況について

基準1. 教育理念・目的・人材育成像

コメント	評価
・学生、教職員はどんな場面でも明るい「挨拶」は日常的にも必修である。自己表現の基礎なので欠かさないで欲しい。 ・教育理念は時代を問わず普遍的な物として、教職員だけでなく学生にも浸透してほしいものだと感じた。 現在はライブ産業の人材不足が深刻化しており、企業の採用意欲が高まっているが、それゆえに採用後のミスマッチも増えることが予測され、そういったミスマッチを減らすための取組が企業側にも学校側にも求められていくように思われる。 ・教育方針の「実践教育」「人間教育」に関することは十分記載されているが、「自立教育」の視点からの記述が不足しているように感じる。求められる人材に合わせた教育は最重要だと思うが、学生の特性を尊重しそれを活かす職業選択指導、という視点が理念や方針レベルで必要な時代だと思う。 ・どの項目もわかりやすく文書化できていると思う。その内容の浸透率をどう把握していくかが必要である。インターン実施により、学校で学んでいることと現場レベルでの答え合わせができると思うのでそこに関しては近年特に企業間でも差が広がってきているため、状況の把握を強化していくとよい。	3

基準2. 学校運営

コメント	評価
・事業計画の年次5年は長すぎるように思う。状況の変化が加速している昨今、3年くらいが妥当であると思われる。 ・いずれも適切に運営されていると感じる。障害者採用に関しての記述があるが、LGBTQ+への配慮、長時間労働の防止策なども今後は求められていくかもしれない。	3

基準3. 教育活動

コメント	評価
・学内技能検定制度(TOHO License)は良い取り組みである。外に向けてもっとアピールをしてほしい。教育成果の一つとして例えば JPPA のコンテストは大切である。昨今、当校のコンテスト入選が減ってきたことは悲しい。 ・カリキュラムの選定、アンケート結果の反映、教員・講師の人材確保など、非常に難しいバランスを取りながら学校を運営されていることが窺われた。デジタル技術に通じた人材は音楽産業としても育成と確保が難しいと思われ、その部分に関しては外部人材の活用が現実的かもしれない。 ・「目標達成シート」「授業評価アンケート」「オンライン授業」など、高校でも多く求められていて、最近ようやく職員・生徒・保護者がそれらに慣れてきた。資料の内容と長期的展望と学生の満足度向上に関して、大変ご苦労されているように感じた。 ・各項目、改善方法や取り組みの可視化ができていると思う。 資格・免許取得については向かう業界、業種によって必要度が大きく変わると近年の細かい法改正などに応じて各種、対応していく。資格取得をしない人の時間の使い方はさらに他の可能性を広げられると思う。 ・教員不足は世の中的にも人手不足ともリンクすると思うので、より一層の外部との連携(企業、外部講師)をし、まずは関係人口を増やすことで改善されることもあると思う。	4

基準4. 学修成果

コメント	評価
・学修成果として TOHO の OB の活躍は地方に至っても健在である。 Uターン、Iターンを目指す学生にももっと地域 TOHO 会と連携して情報開示を積極的に。 ・「近年成長したエンタテインメント分野」のような、新しい業態のコンテンツに関しては学生のキャッチアップが早い場合もあると思われ、そういった声をアンケートでも集められていることと思う。 ・資格・免許の取得に関しては、こういった種類の資格か、また私共プロモーター業界ではどれくらい資格を重視しているか把握できていないが、普通自動車免許や英語のほか、日常的なビジネスに関する資格・免許のニーズはあると思う。 ・少子化が進む中、OB の方々と在校生の繋がり、業界にとっても今後益々重要になってくるかと思う。 ・「就職率」というページなので、やはり数字を提示して頂きたい。高等学校進路指導部は、専門学校の就職率や退学率をととても重要視している。年度別に就職率や就職先職種一覧がわかる資料を拝見したい。専門学校全分野での比較、第8分野文化教養系専門学校間の比較、音響系専門学校間の比較など、必ず生徒に調査させている。調査の際、専門学校はプロを育てるため、希望の職種にどれだけ就職をしているか、DO 率はどれくらいなのか、進路変更をした場合どのような仕事に就いているかなどを着目するよう指導している。自動車学校や美容学校は職種が明確であるが、それ以外の第8分野文化教養系は不況の際は低く見られ、疎遠にされてしまう場合がある。音響業界など需要が沢山あることを分かりやすく提示していくことが必要ではないだろうか。特に保護者が職種を理解して進路先として納得できるような資料を作るべきである。志望高校生向けだけでなく、保護者向け高等学校進路指導部向けという意味でも学校案内に記載があると良い。 ・就職後の継続率をどう維持、改善していくかで業界の底上げを期待できる。就職したあとの離	3

職理由や、企業と学校側とのコミュニケーションの強化を図りたい。ここに関しては現在、どう業界に人を残していくかを考え中なので引き続き連携を取れたらと思う。	
--	--

基準5. 学生支援

コメント	評価
・DO 率の低下、就職率の向上からグリーンガイダンス的な新入生宿泊研修を復活させては。学生、教職員とのコミュニケーションが密になり、学生生活向上の一助になりうる。 ・会社訪問や入社試験に関する情報の共有は良い方法と思う。メンタルヘルスのケアは今後も重要になるのではないかと。また在学中のアルバイトや就職後のことを見据えて、労働基準法など関連法規について伝えることや、LBGTQ+への配慮なども支援として考え得るかもしれない。 ・各項目に対する貴校の取り組み、とても十分に実施されていると思う。高等学校教員として、とても勉強になった。前回の会で、英語教育に関して話題が出たが、英語に関する授業を配置できるのであれば、ぜひ取り入れるべきだとは思いますが、留学生や翻訳アプリなど、授業内のほんの短時間、英語を意識させるだけで、学生の意識も変わっていくのではないかと。 ・メンタル面の相談やフォロー、保護者とのコミュニケーションはとても根深く繊細な問題もあると思う。多角的なサポートと試行錯誤が必要であり、その取り組みは実施できていると思う。 ・高校でリーダーシッププログラムを実施している。リーダーになることが目的ではなく、一人一人が言いたい事を言える環境を作っている。出身校が同じであるとグループが出来てしまい、孤立してしまう生徒も出てきてしまう。10時間という長い時間を設け、皆とコミュニケーションを取り「自分がしゃべる経験」をさせている。過去の経験を話すのではなく、新しい課題を出し答えを導いていくことで、意見を出し合い話すことへの克服に繋げている。 ・学校の方から、共通のコミュニティを作る場を提供するのはどうか。	3

基準6. 教育環境

コメント	評価
・インターンシップは学生の初めてのキャリアである。その実績を評価して学生自身の今後、履歴として自覚、明示させる。 ・防災・保全・衛生にまで配慮をしつつ施設・設備のメンテナンスを継続的にする大変さを、深く理解できた。そうした状況で、新しい機材を充実させていかないとはいけないわけで、本当にご苦労されていると思う。 ・施設、設備等の環境のアップデートが素晴らしいと思う。	4

基準7. 学生の募集と受入れ

コメント	評価
・学校の内容をもっと知ってほしい→「毎日学校参観！授業参観」を。 「エンターテインメント業界の未来を築く人材育成」→もっと短く効果的なキャッチコピーを皆で考えたい。 ・入学希望者・保護者・高等学校・日本語学校教員への情報発信や、入学者へのアンケート実施など、丁寧なコミュニケーションを図られていることを感じた。韓国・台湾に事務所を設けているなど、留学希望者へのケアも十分と思われる。 ・学校案内は、キャッチーでインパクトはあるが、ホームページと比較すると時間をかけてじっくり読むものである。中身の充実を期待したい。貴校卒業生の就職する職種一覧、単年度の就職率、就職先一覧、職種別割合、卒業生の記述による就活体験記、進路指導の個別事例、業界が求めているもの、など、初心者にはわかりやすく、かつ保護者がじっくり読める深みを持てるような学校案内がよいのではないだろうか。現在の学校案内は、東放学園他の3校と比較すると、案内自体と関係の薄いフェスやアーティストの羅列が多く、説明も音響経験者にしかわからない用語が解説なしで記載されているように読める。東放学園専門学校や東放学園映画専門学校との、授業や就職先の棲み分けはどれだけしてあるのか、YouTube、配信などの発達により、棲み分けや協力体制など、新しい指導体制が期待されているのだと思う。業界には東放学園出身者が多い、という話が出たが、その例はテレビ業界の中の東放学園全体での話に聞こえた。貴校音響専門学校限定で音響業界では本当に東放学園出身者が多いのか、知りたいところである。それが学校案内を読めばわかるように記載されていると良いと思う。他の音響系専門学校（日本工学院・東京工学院・尚美・TSMあたり）との差別化、上述の「業界出身者数の違い」以外の点があれば、それを前面に紙面に押し出すのがよいと思う。 ・ライバル校に対して差別化をどれだけ意識しているのか。日本工学院は学科数が多く就職先も選びやすく安心材料がある。ESP は楽器などを作る、TSM は出る側のキャストなど強みが伝わるが東放学園からはパンフレットを見ても強みが伝わりにくい。魅力的なスタジオがあるのに導いていないように感じる。学校パンフレットの授業案内を見ても、音楽の知識がないと分かりにくく、分からない用語が続くと苦手意識が出てきてしまい、読むのをやめてしまう。他校の案内では、業界で必要なシステムがあることからはじめ、必要性を理解させた上でシステムの説明を行っているため、理解がしやすい。	3

基準8. 財務

コメント	評価
・TOHO 会との連携で 50 周年記念事業的なものを。広報（対外）予算を。 ・いずれの基準でも適切に対応されていると思われる。ホームページで公開されている 2021 年度、2022 年度の財務情報を拝見し、平時との差はわかりかねるが、コロナ禍においても堅実な運営がされていると感じた。	4

基準9. 法令等の順守

コメント	評価
・適正に運営していると思う。 ・法令遵守、ハラスメント対策、個人情報保護などに細心の注意を払われていると思う。特にハラスメント対策は音楽業界においても重要な課題であり、受けた場合の防衛策に加え、自身がハラスメント行為の主体とならないための理解促進が肝心と思われる。 ・コンプライアンスは「学校」なので大変重要である。現時点で心配ない環境であっても、さらに事故ゼロを目指す工夫を次々と考えていかなければならない。	4

基準10. 社会貢献・地域貢献

コメント	評価
・行政や地域との連携、留学生受け入れによる国際交流、ボランティア活動の促進は、貴校の活動目的においては付随的な要素でありながら、大きな人的リソースを要する難度の高いものと拝察するが、同業他校との差別化を図るうえではキーポイントにもなり得ると思う。取組そのものは着実に進められていることが窺われる。 ・地域運動会や祭だけでなく、学校施設、保育施設、介護施設、など、簡易的な音響機材やオペレーターを必要とするイベントは多いと思われる。学生に数多く経験させることは大事だと思う。積極的な社会貢献を期待する。 ・社会や地域との関わりをエンタテインメントの学校として今後も多角的に取り組んでほしい。地域イベントや FES での学生の経験の場をもっと増える仕組みを作れたらより選択肢が増えると思う。地域との交流だけでなく地方の業界の状況を知るきっかけや全体のベースアップに繋がる動きになると学校としての新しい可能性も生まれると思う。	3

Ⅲ. 所感

コメント
・競合校である超大型校の細かい学科編成、コース化が評価されることもある一方で、当校は堅実で良質な学校運営であることが判った。東放学園が目指すのは「中型校できめの細かい学生に親身な校風」で良いと思う。 ・音楽業界ではコロナ禍を経て環境変化が進み、求められる人物像やスキルも変わってきていることが予想されるが、私共業界団体ではそのような具体的な人材のニーズの変化を把握できているとはいえない部分があり、団体としての課題と認識している。貴校では卒業生の方々や関係企業へ、人材ニーズに関するリサーチをされていると思うので、今後の意見交換の際にはそういった動向もご示唆いただきたい。 ・今後も、学校の在り方や発展を卒業生として一緒に考えていけたらと思う。業界がコロナ禍で離職が増え人手不足なのが現状である。次世代に繋げるためにも企業として、積極的に学生が現場での経験値を積み重ねるような場を提供し、業界やエンタテインメントに少しでも興味を持ってもらえたらと思う。 ・DO 問題において、DO 率をゼロにすることは厳しいのが現状である。近年は保護者も進路変更への考え方が甘くなってきているようにも感じる。止むを得ず退学者が出てしまった際、退学を選択した学生が、在学中の学生生活に満足していることが大事なのではないだろうか。 ・教員を現場研修に行かせることが重要である。業界と密になることが専門学校特性に繋がる。業界からの情報や技術や知識を学生に提供できることが最も重要である。